



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



昭和大学口腔ケアセンター設立記念新春シンポジウム開催される

口腔ケアセンター長 向井 美恵

昭和大学口腔ケアセンター設立記念新春シンポジウム本シンポジウムが、去る1月10日(土)に昭和大学入院棟臨床講堂で開催されました。当日の午前に開催された全国8医科・歯科大学による「戦略的大学連携事業: 口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」の大学学長・学部長会議と担当者・実務担当者会議に出席の20余名の先生方もシンポジウムに参加してくださいました。

シンポジウムの開催にあたって昭和大学学長の細山田先生から「昭和大学口腔ケアセンター設立によせて」、歯学部長の宮崎先生から「新春シンポジウムの開催に向けて」と題してそれぞれご挨拶を頂戴しました。その後、向井口腔ケアセンター長により「口腔ケアセンターの概要」と題して口腔ケアセンターの3つの役割(1. チーム医療への貢献、2. 教育への貢献、3. 地域医療への貢献)と口腔ケアの標準化を記載した基本マニュアルが紹介されました。

シンポジウムでは向井、日山(昭和大学歯科病院歯科衛生士長)の2人が座長を務め、4人のパネリストが講演を行いました。

最初の演者である国立感染症研究所の泉福英信先生は「口腔ケアと免疫」と題して、全身の免疫力が口腔微生物叢のバランスの維持に關与しているのではないかと、との考えから、口腔ケアによる刺激が全身の免疫応答を活性化している可能性と全身免疫に対して局所免疫と口腔ケアとの関係についての研究内容を提示されました。次に、札幌市立大学看護学部の村松真澄先生が「看護師が担う効果的な口腔ケア」について、あらゆる健康レベルの人たちにより良く生きるために、全身の健康と同じように口腔の健康が大切であることを症例を提示しながら話されました。3番目の国立長寿医療センター病院の角保徳先生は、「病棟における口腔ケアの展開」の題で、入院患者に対する医療は、医療行為から看護・介護、在宅支援まで含めた多職種チームアプローチに他ならない、との考えの下に地域連携を含めた口腔ケアの展開と問題点を提示されました。最後に名古屋大学医学系研究科予防医学の内藤真理子先生が「口腔ケアと QOL」で、口腔の健康に關連した QOL(口腔關連 QOL)として、GOHAI を紹介し、研究結果を提示されました。最後に岡野歯科病院長の閉会の辞でシンポジウムが閉会となりました。

今回のシンポジウムでは、臨床・研究の最前線で活躍されている演者から、エビデンスに基づいた口腔ケアの手法や評価方法、病院の現場で求められているケアについて講演して頂きました。会場との間で、講演内で紹介された手技や機材、評価手法などについての導入方法や患者への適応など多くの討議がなされました。また、各演者より医系総合大学の附属病院に設立された昭和大学口腔ケアセンターへの期待が語られ、主催者一同期待に応えるべく努力しようとの意を強くしたシンポジウムでした。



教室紹介

齶蝕・歯内治療学教室(旧第一保存学教室)

松本 光吉



現在の我々の教室は不自然な状態にあります。5年前前に歯学部臨床系講座の統合が行われ、今年4月に私が定年退職した時点で旧第一保存学教室と旧第二保存学教室が統合されて一つの教室になる事になっていました。ところが、昨年になって予定が変更され、今年4月1日から歯内治療科の名称で学部長所属の一診療科として再出発する事になりました。5年前に教室の統合を知った2名の准教授が2年前に早々と他所の大学の教授として転出したのは誠に残念な思いがします。研究者の育成には長い時間と可成りのお金が掛かります。教室の発展は優れた人材を育てる過程で達成されます。

全盛期には留学生も含めると50名を超えた常勤医局員も現在では渡辺、木下、増田、山田講師、川中、石井助教、小林、高松、森川、宮沢、宮崎、大場、仲田員外助教、照井、伊達卒後研修医、池本研究補助員、ブラジルからの留学生 Minamisako と私で計18名の小さな家庭的な教室になりました。

定年に際し感じる事を述べるようにとの事ですが29年間昭和大学歯学部教授として在職し希望に満ちた時期、失望した時期、惰性で過ごした時期を繰り返して今日に至ったような気がします。何事を行う場合でも同じであるが希望に満ちている時期は短く、この短い時期を逃さず脱兎の如く全力を尽くし、失望した時は度一切苦厄、ゆっくり慌てず未来への小さな光を求め続ける事以外に道は無いと思います。嵐は必ず止み、やがて眩しい太陽の光が差し込む。

CBT が実施されました

CBT 委員長 井上 美津子

平成20年度の共用試験 CBT が歯学部4年生を対象に去る2月4日(水)に実施されました。昨年までは会場の関係で前半、後半と分かれて2日間行われましたが、本年度より医学部、薬学部も共用で使えるように4号館の600号室を改装したため、1日で実施できるようになりました。ただ、入試の時期とも重なり、当初予定していた同じフロアの実習室が学生控室として使えなかったり、昨年までと同じ人数の学内監督者で倍の人数に対応しなければならなかったりと多少の不備もありました。しかしD4学生の皆さんは遅刻・欠席もなく、真面目に受験していただき、無事試験は終了しました。実施評価機構からのモニター委員として鹿児島大学の相山教授と神奈川歯科大学の平田教授が派遣され、本学 CBT の実施状況を監視されました。モニター委員からは、試験会場や実施体制の問題点などの指摘を受けましたが、「学生の態度はとても良かった」というコメントをいただきました。黙々と監督していただいた基礎の先生方を始め、関係者の皆様、お疲れ様でした。

大学院歯学研究科入学試験が実施される

大学院運営委員会 上條 竜太郎

平成21年度大学院歯学研究科入学試験(第1期ならびに2期)が、それぞれ12月6日(土)と2月28日(土)に実施されました。志願者数は第1期が14名(社会人特別選抜2名を含む)、第2期が19名(社会人特別選抜8名を含む)、合計33名でした。試験は英語(一般英語・科学英語)と専攻科目について実施され、第1期入試では当日欠席の1名を除いた13名、第2期では19名、合計32名が合格しました。この結果、来年度の歯学研究科在籍学生数は、105名(本年度は98名)となります。また、全合格者32名のうち、本学歯学部出身者は23名、他大学出身者は9名(国外の1名を含む)でした。入学式は4月4日(土)に執り行われます。

戦略的大学連携支援事業のTV会議システムの試運転

歯科医学教育推進室 馬谷原 光織

去る1月20日、旗の台1号館5階 歯科医学教育推進室にて、戦略的大学連携支援事業のTV会議システムの試運転が行われま



した。本事業は福岡歯科大学を幹事校として、北海道医療大学、岩手医科大学、神奈川歯科大学、鶴見大学、福岡大学、九州歯科大学に本学を加えた8大学が、口腔と全身の疾患の関連について十分な知識を持ち、口腔ケアを含む口腔疾患の予防・治療ができる歯科医師の養成カリキュラム構築を行っています。本TV会議システムを利用することにより、容易に8大学担当者の会議を行うことができるため、円滑な事業推進に寄与することが期待されます。本学からは宮崎 隆学部長をはじめ、立川哲彦教授、中村雅典教授、井上富雄教授が参加され、事務局からも教務課山口課長をはじめ5名が参加しました。8大学からTV会議システムを用いて相互に挨拶を行い、次いで技術試験が行われました。試験中に画質や操作についていくつかの問題点が指摘されましたが、本学では教務課を始め、総合情報管理センターなど、技術関連部署による万全の準備体制により円滑な運営となりました。最後に福岡歯科大理事長より、これら協力確立への謝辞と今後の展開についてのご挨拶があり終了しました。

第102回歯科医師国家試験が実施される

教育委員長 佐藤 裕二

2月7日8日の両日、第102回歯科医師国家試験が大正大学で施行されました。国家試験が難しくなり、各大学が受験生を絞ってきています。当大学は留年した学生は少なく、95名の新卒が受験しました。昨年度、禁忌枝で涙をのんだ既卒者たちも1年間よく頑張り、試験に臨みました。朝から立川学生部長が会場正門で受験者達を見送り、受験生達は少し緊張がほぐれたと思います。今回から23題のスーパーXと呼ばれる形式の問題が出題されました。「〇〇はどれか。すべて選べ。」という形式で、5つの選択肢のうち正解が何個あるかがわからないという形式です。偶然の正解率は3%しかありませんから、まぐれ当たりはありません。正確な知識が要求されますから大変です。受験生達は緊張していましたが、これまで養ってきた力を十分に発揮してくれたものと思います。3月27日の発表を、私も少し不安ですが、楽しみにして待ちたいと思います。

入試結果(選抜Ⅰ期・センター)について

口腔生理学教室 井上 富雄

1月30日(金)に平成21年度の歯学部選抜Ⅰ期試験、大学入試センター試験利用入学試験が東京会場(旗の台キャンパス)、大阪会場(新大阪丸ビル新館)と福岡会場(南近代ビル)で行われました。当日は、東京と福岡は雨、大阪は曇りの天候でしたが、3つの会場で入試が滞りなく行われました。選抜Ⅰ期の志願者数は全体で306名となり、昨年よりも138名減少しました。合格発表は2月3日に行われ、96名(男子40名、女子56名)が合格しました。センター入試も昨年より49名減の123名の志願者となりました。合格発表は2月5日に行われ、30名(男子14名、女子16名)が合格しました。3月1日には選抜Ⅱ期試験が行われ、昨年度より2週間早い実施となっております。全国的に歯学部の志願者が減少しております。職員の皆様には、一人でも多くの優秀な志願者が本学を受験してくれるよう、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

試験	募集人員	出願期間	試験日	合格発表
推薦	23名	H20.10.27~ H20.11.5	H20.11.9(日)	H20.11.11(火)
編入	若干名	H20.10.27~ H20.11.5	H20.11.9(日)	H20.11.11(火)
センター	約10名	H.20.12.24~ H.21.1.23	H21. 1.17(土), 18(日), H21. 1.30(金)	H20. 2. 5(木)
選抜Ⅰ期	55名	H20.12.24~ H21.1.23	H21. 1.30(金)	H21. 2. 3(火)
選抜Ⅱ期	約8名	H21.2. 9~ H21.2.24	H21. 3. 1(日)	H21. 3. 3(火)

釜山国立大学での講演

歯科矯正学教室 山口 徹太郎

今までの歯学部だけのPBLとは違い、自分の専門分野だけでなく他の分野にも興味を持つことができ、有意義な時間を過ごすことができました。将来臨床に出たときにこのチーム医療を生かした対応ができるような歯科医師になりたいと思います。去る2月2日、韓国の釜山にある釜山国立大学矯正歯科で講演を行いました。釜山は人口410万 韓国第二の都市で貿易港としては韓国第一だそうです。成田から、行きは2時間半、帰りは2時間、福岡からフェリーで行くこともできます。釜山国立大学矯正歯科には Soo Byung Park 教授がいらっしゃいます。彼とは顎顔面形態とヒトゲノムとの関連に関する共同研究を2003年頃から始めました。その結果は2004年 *Journal of Dental Research* に掲載、また最近、*Archives of Oral Biology* の掲載受理を得ることができました。現在、釜山国立大学病院の移転が進行中とのこと、Park 教授は病院長なのでとても忙しく、ややお疲れ気味でした。

今回、講演の機会をいただきこれまでの研究成果、また現在進行中の研究についてお話ししました。30名程

度の department でしたのでアットホームな雰囲気、また忌憚のない質問をいただくことができました。

韓国の通貨であるウォンが円に対しだいぶ下がっていたので買い物でもしたかったのですが、その時間はありませんでした。今後も、より親交を深めるとともに共同研究の進展を願っています。

4学部横断PBLを体験して

歯学部3年 鈴木 雄大

今回全学部横断PBLを行い、多くの知識及び考え方を学ぶことが出来ました。今までの歯学部だけのPBLとは異なり今回の全学部が合同で行ったPBLでは医療全般の内容となっており、身体全体のことを考慮しなければならないことや、歯科分野での専門用語を理解しやすく噛み砕いて説明するのに、自分がきちんと理解していなければならないので、積極的に学習を深めることができました。また、他学部の専門分野や実習先で経験したことを聞くことにより、口腔のみでなく全身の事も考えなくてはならないということを改めて実感しました。

将来歯科医師となった時に、自分ひとりで治療を進めていくのではなく、患者さんに携わる多くの人の意見を参考にこの貴重な経験を生かしチーム医療を大切にしていきたいと感じました。



4学部横断PBLを体験して

歯学部3年 西内 智紀

12月に行われた全学部合同の学部横断PBLは、1年生のときに富士吉田で寮生活を送って以来の合同授業でした。今まで、歯学部だけのPBLは行ってきましたが、各学部それぞれ勉強してきた知識が異なるため、今回の臨床的なシナリオに対して協力しあい充実した議論を行うことができました。今回一番学んだことは、4学部が集まり1つのシナリオに対して問題視する点がそれぞれ違い、視野が広がったということです。

医学部に関しては全身疾患の病態と治療法などを、薬学部に関してはその治療薬と全身管理などを学んでおり、また看護学科に関しては臨床実習をすでに行っているため、患者さんとの接し方など実際の医療現場での話を聞くことができました。私達歯学部は、人数が少ないために調べる学習項目が多く、責任感が大きかったです。



香港大学での OSCA 実施を見学して

歯周病学教室 宮澤 康

去る1月7日～9日、まだ正月気分も抜けきらない年明け早々に香港大学歯学部で OSCA(Objective Structured Clinical Assessment)視察が行われました。昨年同校を訪れたメンバーを中心に、中村教授、井上美津子教授、馬場教授、山本教授、真鍋准教授、片岡准教授、倉林准教授、島田講師、菅沼講師、渡邊講師、野中助教、宮澤の12名が参加いたしました。今回は文科省の「歯学教育改善の方策に関する提言」の中に盛り込まれている、臨床実習の到達目標の明確化と客観的臨床評価を行う必要性から、昨年の PBL 視察に引き続き、すでに臨床参加型実習を行っている4年生の OSCA 視察となりました。1日目は昭和大学の OSCA 導入のプランニングと視察ポイントの確認会議を行い、2日目に実際の OSCA 実施現場を視察いたしました。



52名の学生を午前と午後グループに分け1課題10分のローテーションで行ってまいりました。守秘義務と学生を緊張させないため写真撮影が制限されている中、スタッフに睨まれながらもミッションを遂行いたしました。ステーション課題は全部で21題と豊富であり、臨床実地の応用編的な内容であるとともに基礎歯学と臨床が繋がっており、全体としてよく練られている課題だと感じました。臨床診断力を問う問題や臨床で遭遇するトラブルについて考察させる問題、また医療面接では言語・非言語コミュニケーションの課題をビデオを通じて提示し回答させることで評価の客観性や標準化、効率化にも配慮がなされていました。

今後本学では「臨床実習終了時 OSCE」として位置づけることになり、平成21年度に向けて視察した成果を盛り込んだ昭和大学カリキュラムが検討されることになりました。



インフルエンザに注意しましょう

総合内科 井上 伸

本年初頭から多数の教職員や研修医、学生さんがインフルエンザに罹患されました。幸いにして皆さん順調に回復されましたが、今後予想される新型インフルエンザ

ザには注意が必要です。

新型インフルエンザは鳥インフルエンザウイルスが人体で増えるよう変化したものです。人間界にとっては未知のウイルスで、ヒトは免疫を持っていません。現時点で新型インフルエンザの発生は確認されていませんが柔軟な対応がとれるよう準備しておく必要があります。

インフルエンザは感染した人の痰や唾液中のウイルスの吸入で感染します。そのため、日常の手洗いやマスク着用の励行、人混みへの外出を控えることが重要です。また、十分な休養と体力や抵抗力の増進、バランスのよい栄養も大切です。

インフルエンザが疑われるときは自宅で休養することが重要です。少しでも疑いのある場合は総合内科外来で「インフルエンザ迅速テスト」を行い、症状と併せてタミフルやリレンザなど、抗インフルエンザ薬を処方します。

新型インフルエンザ等に関する情報は、厚生労働省のホームページに掲載しており、随時更新されます。関係の方は随時、閲覧くださるようお願い致します。



診療統計(平成21年1月分)

医事課長 久米徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	16,585	721.1	784.9	730.3
入院患者	293	9.5	14.5	10.7

行事予定

広報委員長 井上富雄

- 3月 7日 ハイテク・リサーチ・センター研究成果発表会
- 3月14日 昭和大学歯学部包括的口腔癌研究センター平成20年度シンポジウム
- 3月19日 卒業式
- 3月21日 昭和大学共同研究成果発表会
- 3月26日 大学院歯学研究科修了式
- 4月 3日 進級式・白衣授与式(D5)
- 4月 4日 大学院入学式
- 4月12日 入学式および入寮式

編集後記

口腔病理学教室 山本 剛

国家試験も終わり、教員の皆様は期待と不安の入り混じった状態で結果を待っていることと思います。3月にはハイテクリサーチ、包括的口腔癌研究センター、共同研究と多くの研究発表会が開催されます。大いに盛り上がった会となる事を期待しています。

学生の試験や各種報告書等大変お忙しい最中に原稿をご執筆下さった諸先生方に心より感謝いたしません。